創部以来初の神宮球場に多数の同窓生集う

オール豊多摩応援団

神宮球場での準々決勝が決定し、同窓生がＴｗｉｔｔｅｒで「応援に来る人は何か黄色い物を身につけて来てください」と呼びかけたところ、ＰＴＡ製作のマフラータオル・お手製の黄色い団扇・野球部父母の会製作のＴシャツなど、思い思いの黄色いグッズで、応援席は見事に黄色になりました。

吹奏楽部はＯＢとの合同演奏会やコンテストを控えていたにもかかわらず、やはりＴｗｉｔｔｅｒで「一緒に演奏してくれるＯＢの方、楽器を持って集合してください」と呼びかけ、素晴らしい演奏で応援を盛り上げました。

チアリーダーは体操ダンス部部員。はつらつと応援してくれました。たぶん同窓生の方は「豊多摩にチアリーダー！」とビックリされたのではないでしょうか。

さらに、サッカー部・陸上部・軽音楽部などの生徒も駆けつけ、応援席の人数は過去最高を記録。平日なので有給休暇を利用した！という強者のＯＢも。保護者の方もたくさん参加され、文字通り「オール豊多摩応援団」となりました。

平岩監督によると、選手には、球場での応援は、とても力になったそうです。球場に来られた皆様、応援ありがとうございました。そして、ご協力頂きました多くの方々に感謝致します。

今後の試合日程などは、野球部ＯＢ会のＨＰ、豊多摩リンクスなどで紹介しますので、これからも皆様の応援、よろしくお願い致します。

新聞など
メディアにも
記事が
載りました

野球部ＯＢ会
公式サイト

吹奏楽部とＯＢの渾身の応援演奏

ベンチ入りできなかった部員達もスタンドでチア達と一丸となって声援

豊多摩野球部ＯＢ会
会長　谷中 哲雄（高21期）

まず目標の神宮球場進出達成おめでとう！

母校の球児の西東京大会ベスト８初進出、熱戦を展開し盛り上がった今夏の豊多摩高校野球部ＯＢ会、心沸き立つ日々を送らせて頂き感謝致します。

まず、専大附属との一回戦初戦が今夏の野球部史上初のベストエイト進出への第一歩だったと、過去一度も勝てなかった相手に、先制されながらも追いつき追い越し、宮下投手の苦手な最終回をライトからの好返球で本塁前でタッチアウトとして終わらせた劇的な勝利でした。

第四回戦は予想外の練馬高校が勝ち進み、試合開始早々に３点を先制されながら、追いつき追いついて、タイブレークでサヨナラ勝ちを収め、神宮球場行きを決めた歓喜はＯＢ達にとっても最高潮だったのです。

平岩監督の叱咤激励が有って、全部員の目標に向かう熱意が、切磋琢磨した努力の結果がこの快挙を生み出しました。

豊多摩硬式野球部ＯＢ会は、今後も現役選手の活動に陰ながら寄り添い、次なる目標達成、最終的には甲子園出場達成に向けて、ひたすら応援を続けて行きたいと思っています。

豊多摩同窓会
理事長　藤井 研一（高16期）

西東京大会2回戦　観戦記

7月11日の豊多摩の初戦相手は専修大学付属高校。スタンドは野球部員、応援部員、チアーガール、吹奏楽部員生徒さん、選手の保護者、野球部ＯＢ，同窓会員等で総勢２００人はいただろうか。

試合は前半は２対２、６回に豊多摩は２点を入れ４対２と勝ち越し。

いよいよ最終回、専大はヒットとフォアボールで２アウト２・３塁の絶好の同点チャンス。ここでバッターはライト前ヒット。やられたぁ。３塁ランナーに続き２塁ランナーも一挙ホームへ突っ込むも、ライトからの好返球。滑り込むランナーにタッチ。主審の右手が大きく上がりタッチアウト。滑り込んだランナーは暫く立ち上がれず、豊多摩の選手はホームベース脇で歓喜の抱き合い。素晴らしい幕切れでした。これぞ文武両道。

豊多摩高等学校
校長　吉田寿美

豊多摩高等学校硬式野球部、西東京大会ベスト８。本当に素晴らしい結果です。

私も、試合の応援に行きました。選手たちのはつらつとしたプレー、応援席の歓声。マウンドとスタンドが一体になっていました。硬式野球部、生徒、保護者、教員、ＯＢ・ＯＧ、豊多摩高校の関係者の方々が一つになって戦っていました。まさに、「チーム豊多摩」でした。令和になって初めての夏。豊多摩高等学校にとって、大変嬉しい出来事でした。

豊多摩高等学校
ＰＴＡ会長 豊川宜江

準々決勝の日、神宮球場３塁側スタンドには本当に色々な人が集まっていて、豊多摩高校の伝統と応援してくれる人の層の厚さを改めて感じました。試合の終盤、静かに、しかし力強く球場に響いた校歌は感動的で、試合には負けはしましたが誇らしい気持ちでいっぱいになりました。野球部の皆さん、ありがとう。野球部を支える先生や保護者の皆さんにも感謝です。甲子園で校歌！を目指して今後も練習に励んでください。

野球部 72 期保護者の会
会長　大室明美

本大会を振り返って

３年生にとって最後の公式戦となった本大会。選手たちが掲げた目標は「神宮球場でプレイすること」でした。最初に聞いた時には、とてつもなく大きな目標にとても驚きましたが、彼らは見事にその目標を達成してくれました。一戦一戦勝ち上がる度に強くたくましくなっていく選手たち。劇的な試合の連続で、まさか！という衝撃と喜びを何度も何度も味わわせてもらいました。

そして、大変多くの方々が、野球部を応援してくださったことに深く感謝いたします。皆様から頂いたエールが本当に選手たちの力になっておりました。最後まで応援していただき、どうもありがとうございました。

野球部
主将　加藤佳祐

今回はたくさんの応援ありがとうございました。応援の力が自分達の力となり、目標としていた「神宮球場でプレーする」という目標を達成することができました。

秋、春と初戦敗退という悔しい想いをしました。特に第３学年はこのまま夏も初戦で引退してしまうのではないかという焦りがありました。そこから練習をする意識が変わりました。朝の時間も有効活用し、バッティング練習などを行いました。その努力が結果に結びつき良かったと思っています。しかし自分達の努力だけでは決してここまで勝ち上がれませんでした。それはご指導してくださった平岩先生、増島先生をはじめ、サポートしてくれた後輩、毎試合応援してくれたダンス部、吹奏楽部、同級生、先生方、同窓会の方々そして保護者皆様のお陰でここまで勝ち上がることができました。関わってくださった全ての方に感謝しています。本当にありがとうございました。そしてこれからも豊多摩野球部をよろしくお願いします。

写真提供：野球部ＯＢ会／高35期川原口さん／高36期野瀬さん　資料提供：野球部ＯＢ会　高28期馬場さん・高36期山川さん／高34期前澤さん

平岩 了監督 インタビュー

８月24日、中学生対象の体験入部の前にお話を伺いました。

部員は３年生15人、２年生14人、１年生14人。夏の大会をもって３年生は引退したそうです。

－まずは準々決勝進出、ベスト８お疲れ様でした。今大会を振り返っての今のお気持ちはいかがですか。

本校はこの１年グランド改修工事があり、練習などに制限があった中で、部員達が良くがんばり、いい結果を出してくれたと思います。

－神宮球場での選手達の様子は。

目標を達成した感じですね。負けても笑顔でした。応援も励みになりました。雨続きでも１回も日程変更がなく、投手のコンディションも良かった。運もありました。

－今大会でいけると思ったのはいつですか。

初戦の専修大付属高校との対戦を突破した時です。相手は公式戦で一度も勝てていなかったし、練習試合でも分が良くなかったので、流れができました。

－着任して４年、部員達と初めて会った時の印象は。

「能力はあるが、欲がない」と思いました。

－意識を高めていくには。

野球以外で上達の道があると思う。家庭生活・学校生活、授業中の集中力や行事への取り組みなどが競技力に影響してくるんだろうなと思います。

－創価戦翌日から練習をされていましたが、雰囲気は。

良いムードでした。次回は秋季戦(新人戦）です。目標設定が難しい。今の子の気質なのか現実的なのか、「優勝」とか「甲子園」という言葉は出てこない。そこにギャップはあります。でも今年の２年生らの意識は高くていい雰囲気があります。

－監督の今後の目標は。

最終目標は「甲子園で校歌を歌う」です。

聞き手：嶋林（高36期）　協力：野球部ＯＢ会　馬場（高28期）・山川（高36期）

第101回　全国高等学校野球選手権大会・西東京大会
豊多摩高校野球部　全試合記録

7月11日(木) 一本杉球場 2回戦	専修大付	010	001	001			3
	豊 多 摩	011	002	00×			4
7月15日(月) 一本杉球場 3回戦	東京都市大付	001	000	001			2
	豊 多 摩	030	101	00×			5
7月17日(水) 立川球場 4回戦	豊 多 摩	000	001	011			3
	松 が 谷	000	100	000			1
7月20日(土) 立川球場 5回戦	練　馬	300	010	000	000	00	4
	豊 多 摩	102	010	000	000	01	5

（延長14回、13回からタイブレーク）

7月23日(火) 神宮球場 準々決勝戦	豊 多 摩	000	000	0	0
	創　価	300	031	×	7

（7回コールド）